

体育授業へのパラスポーツ単元導入による学習成果の検討

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号： 4118043  
氏名： 吉原 奈美

【目的】本研究では、小学校の児童を対象にパラスポーツを単元として取り入れることの学習成果を検討することである。

【方法】対象者は、A小学校4年生75名(男子39名、女子36名)であり、パラスポーツに関する講義及びシッティングバレーボールの実技授業を4単位時間行った。方法は、質問紙調査であり、①運動有能感に関する調査②授業評価アンケート③自由記述式感想文を用いた。分析方法は、①運動有能感に関する調査は、IBM SPSS statistics version25(IBM社)を用いてt検定による統計処理を行った。②授業評価アンケートの自由記述項目と③自由記述式感想文は、テキストマイニングソフト KH coder を用いて分析した。

【結果】①運動有能感に関する調査では、運動に対して積極的な意識がある子どもたちが多く、授業の前後で有意差が示されなかった。②授業評価アンケートでは、1時間目から4時間目にかけて、授業評価の平均点が向上した。自由記述から「友達と協力した」「ルールを守った」という点で成果が明らかになり、子どもたちは、チームの一員としてそれぞれが協力し合いながら活動することができたと感じていた。

【結論】シッティングバレーボールを教材として有用できる可能性が明らかになった。今後は、運動に対して消極的な意識がある子どもたちに着目して、これらをどの教育課程に位置付けてどのように取り組んでいくかについて、引き続き検討していく必要がある。